

令和7年度（2025年度）第1回東海市3R推進協議会会議録

日時 令和7年（2025年）7月25日（金）

午後2時から

場所 市庁舎403会議室（4階）

1 出席者

(1) 協議会委員（10人）

榊原 弘之 委員長

酒井 雅代 副委員長

新井 宝造 委員

平井 正吉 委員

白羽 圭子 委員

龍田 昭一 委員

毛利 まり子 委員

坂野 栄生 委員

古賀 祐子 委員

迫分 僚子 委員

(2) 事務局（4人）

河田部長、林課長、小島統括主任、安井主任

2 欠席者

0人

3 傍聴者

0人

4 議題

(1) 委嘱辞令の交付

(2) 委員長及び副委員長の選出

(3) 委員自己紹介

(4) 環境経済部長挨拶

(5) 事務局自己紹介

(6) 報告事項

ア 第4次ごみ処理基本計画後期計画の進行管理について

(資料に基づき事務局から説明)

【酒井委員】

事業系ごみの搬出のパンフレットは、どういう所にお配りする予定でお作りになったのでしょうか。

【事務局】

商工会議所です。あとは、電話で事業系ごみについて問合せがあったときに、体系的に載せているもののため、ホームページにあることを伝えております。

イ 令和7年度（2025年度）の主な事業について

(資料に基づき事務局から説明)

【迫分委員】

木材の資源回収について、個人的に気になった点ですが、東海市の公園で伐採した木について実は一部で市民配布がされており、そういう事業とリンクするという考えはないですか。というのは、私の家に薪ストーブがありまして、薪ストーブを市内に持っている人が最近増えていて、かなりの件数あるのですが、この薪の調達にかなりのお金が掛かるのです。私の家は、雑木林の手入れの手伝いに行き、自分たちで伐採した木を切り出しています。大量に残っていて困っているから取りに来てくれないかと公園管理事務所の知り合いから頼まれて取りに行ったことがあるのですが、これが限定的な期間で手続がわざわざ大池公園まで行かなければいけないというすごく煩雑な手続なのです。リサイクル推進課が行おうとしている事業は、直接バイオマス燃料にされてしまうわけじゃないですか。その前に、市民に倒木したものを配布するなどそういった形でリサイクルするようなことは考えられないかと思いました。私の家は、加木屋緑地からいただくのですが、大池公園にしても、いろいろな緑地がある中で、東海市は街路樹も含めて木を切っていかなければいけない。ウッドチップを作っている会社の社長からもかなりの量があるとの話を伺っているので、必要な人の元に必要な時に行けるような仕組みがあると、薪ストーブユーザーの人たちも非常に楽しく、リサイクルを身に感じていただけるのではないかと思います。

【事務局】

ホームページで見たところ、令和6年度は令和7年3月12日に加家公園で剪定枝を無料配布しますとなっていますね。

【迫分委員】

一部イベントなのですね。やはり定着が難しくて。今は、印鑑は多分要らないと思うのですが、当時は印鑑を持っていかないといけないだとか、車両ナンバーの登録をして持っていかないといけないだとかいろいろあるのですが、取りに行ける場所としてリサイクルセンターを利用できたらいいのではないかと、定期的に行えたら良いのではないかと感じました。

【事務局】

薪ストーブの取りに行く場所を増やせたらということでしょうか。

【迫分委員】

全体量を減らすために、直接バイオマス燃料とするのも良いですが、その前にこういったリユースができたらと思いました。今は夏にキャンプがすごく流行っていて、この薪の値段が物凄く高い値段で、ホームセンターとか行くと恐ろしい値段が付いて売っているのですね。楽しみながらリサイクルを考えることを目的として、何かそういう仕掛けがあってもいいのではないかと思います。

【榊原委員】

生ごみの処理について、電動式生ごみ処理機と生ごみ処理容器の両方ともに補助上限額がありますが、これらの実勢価格・市場価格は大体いくらののでしょうか。

【事務局】

インターネットや市内の電気屋・農業屋を見に行きまして、電動式生ごみ処理機は市内では売っている所があまりないのですが、3点ほどありました。店員に話を聞いたところ、4万円ぐらいのものが一番売れるみたいでして、インターネットでもやはりそれぐらいのボリュームのものが良く出ております。ですので、4万円の半額ほどのイメージで2万円と考えております。同じく生ごみ処理容器の方も大体コンポストなのですが、一番大きいものが9,800円とか1万円いかないぐらいの値段でしたので、その半額で5,000円としたものです。また、知多半島内の他市の上限額や補助率の状況を

見て、均衡を取って考えました。

【迫分委員】

キエーロは木材で作りますか。実は、色々なものがあると思うのですが。

【事務局】

良く御存知です。木材は高いので、プランターです。下はプランターで、上はプラスチックの波板を木で抑えたものを蓋として付けています。

【迫分委員】

これは何かチラシとかでやり方が分かるようになっていますか。

【事務局】

当然買ってくださいる方に促しますし、ホームページにもどういったものか分かるように載せます。

【迫分委員】

そうですね。少しこれは理解されにくいものかと思います。

(7) 協議事項

第5次ごみ処理基本計画アンケート調査の実施について

(資料に基づき事務局から説明)

【酒井委員】

まず、このアンケートは、リユースに関する質問はされないのですか。どういったものをリユースしているとか。せっかくリユースを進めてごみを減らしていこうとする流れでいるのにそこを聞かないのはもったいないと思いました。次に、問15のごみと資源の分別で感じていることについて、自分の親は高齢で車がないので、持っていく手段がないのです。もう少し、色々な世代の方の状況を踏まえた出し方を想像した選択肢があるといいのではないかと思います。次に、食品ロスについて、問20は、どんな種類の食品ロスをどんな頻度で出しているのか聞かないと対応の仕方が分からないのではないかと思います。例えば、直接廃棄のものを週1回出してしまったなど。そういった細かいところもせっかくであれば、あった方が良くと思います。次に、問21のどの理由で発生しているかについて、もう少し細かく状況を踏まえて、例えば冷蔵庫に終い込んでいたとか、同じ物があるのに間違えて買ってしまったとか。何かもう少しこう細かくあると選択肢も増えて、更に市民の方の意図が把握できるのではな

いかと思いました。

【事務局】

リユースにもう少し詳しくというのが、問12の区分3では少し大雑把すぎるのではないかという御意見ですよね。もう少し具体的にということでしょうか。

【酒井委員】

どこに出しているかとか。

【事務局】

メルカリとかでしょうか。

【酒井委員】

そうですね。メルカリだとか、リサイクルショップに出しているだとか。

【事務局】

さらに詳細にということですね。

【迫分委員】

問20の廃棄の頻度について、週2回以上の人がいると私は思うのですが、そこは聞きませんか？もう少し多いものがあると参考になると思います。

【事務局】

週2回以上にします。

【迫分委員】

あともう1つ言うと、随分前に意見として申し上げたことがあるのですが、このアンケートの分析の上で、毎回なぜか加木屋町の回答率がすごく多く、これが何年も行われていることなのです。前回、質問させていただいた時に、このアンケートは無作為ではあるが、分母を分かっていますかという質問をさせていただきました。というのは、東海市の人口に対して、各町の人口比率があるじゃないですか。加木屋町の人口が一番多いとも思えないのですが。その加木屋町から一番回答が返って来ていることから加木屋町のリサイクルとかごみに対する意識が高いという評価がされていたのですね、その当時。ただ、それは本当なのだろうか？ 2,000件の中の1,000件が加木屋町に出していれば、当然加木屋町からの回答率が増えてしまうわけなのですよ。なので、こういうアンケートをどこまで分母を把握していくかっていうことになるのですけれど

も。何歳までとは言いませんが、何町に何通ぐらい出したかぐらいは出していた方が良いのではないかと思います。加木屋町がそんなに特別なイベントをしてリサイクル推進をしているように私は思えないのです。抽出する段階で、オートマティックにやっていると思うのですが。それで毎回出るのが若い人の意識が低いという結果になってくるのですね。本当にそうであるのか疑問に思います。例えば20代に5人しか出していなくて、50代に800件ぐらい出していたとしたら、当然その回答率も下がるし、またそこから回答する・しないもあるので。加木屋町ばかり評価が高くて、若い子ばかりが努力していないというのが、本当にそこで真実が見えてくるのかと感ずるところがありまして。前回の報告書で、母数が全く違うアンケート結果が参考資料で出ていたのですね。そうすると、それは一体どこで、誰に対して行われたアンケートをこの東海市のアンケート結果に持ってきたのか疑問しかなかったものですから、その辺りも含めて、データの取扱いを留意していただけたらと思います。

【事務局】

無作為の取り方という話ですね。

【迫分委員】

無作為の取り方が言いたいです。あくまでも資料に出てくるデータは、このアンケートから持ってきていただきたいです。前回は確か、20歳以上のアンケートで、今回は18歳ですね。前回の参考資料が18歳から出ていて、アンケート対象外にもかかわらず、どうして載せるのかと質問を当時した覚えがあります。そういうことが無いように見ていただけると、より東海市が行うアンケート結果として生きていくのではないかと思います。

【榊原委員】

無作為というのは本当に無作為なのですか。

【事務局】

無作為とすると、本来ですと人口値に近いものになるはずなのですよ。

【迫分委員】

何で加木屋町が優秀なのだろう。不思議なのですよ。ごみの出し方もそんなに特別優秀なわけじゃないのですよ。あえて逆に言うと、太田町や富木島町の方に大変失礼な結果が生まれていた印象がありまして。

【榊原委員】

これ、属性に町も入っていますよね。

【事務局】

入っています。無作為にやった結果、人口比率、その世帯の比率が高いところにやはり行くではないですか。

【榊原委員】

ですよね。

【事務局】

なので、だいたい近い値になるのではないかというのが僕の理解です。分母については、生データで分かります。クロス集計を業者に依頼します。

【迫分委員】

例えば、加木屋町に800通出していて、名和町に10通出したとか。それによって全然違うではないですか。クロス集計をお願いします。

【龍田委員】

集計を比率で表せばいい。

【事務局】

前回の結果が少し分かりづらかったということですね。

【酒井委員】

例えば、名和町とかはリサイクルセンターが近いのでたくさん出している人が多いとか、逆に加木屋の方ってそういう所があまりないので苦労しているとか、そういった結果はどのように出しているのでしょうか。日常の条件が良い方・悪い方とかもあるので、そこがこういうアンケートにどう反映されているのかが少し気になりました。

【事務局】

おっしゃるとおりでして、我々も今、酒井委員がおっしゃった、リサイクルセンターの常設場の使用率・頻度に地域差があるというのは予想しておりまして、多分名和や荒尾の方は回答した方の皆さんがよく使われる方が多く、逆に加木屋や三ツ池とかあの辺りの方は少ないのではないかと予想をしています。

【酒井委員】

せっかくアンケートされるなら、やはりどこに住んでいても資源として出し

やすい環境を整えていけるように導きつけていかないと、結果アンケートを取りました、終わり、ではなくて、市民の方たちの利便性を考えたときに次は何をしなければいけないかをやはり考えていかないといけないのではないかと思います。

【事務局】

おっしゃるとおりです。やはり今、北に多くて南にはあまり無いというのもアンケートの結果として出た場合は考えていく必要があると思います。

【追分委員】

アンケートの中にどこに出すかっていうのが、場所。要するに、リサイクルセンターに持っていくのか、加木屋町だと実は子供会が頑張っていることもありまして、その辺の情報をどこかで取れると良いのではないかと思います。例えば、今後南の方に常設場が欲しいとかとそういう話に繋がってくるのではないかと思います。あなたはどこに出しますか。スーパーに出しているのか。例えば、びんについてはアピタではやっているのですが、他の店舗とかスーパーではやってないという現実があります。

【事務局】

びんは今どこもやっていないです。アピタばかりに持っていくのでパンクしてしまってます。

【追分委員】

でもこれは本当に世界的にいうと逆行していることなので、海外ではもう、びんのリサイクルがすごく、リサイクルに戻すのに一番単価が掛からなくて、ヨーロッパとかどの国でもそうですね。

【事務局】

追分委員の質問につきましては、属性で一番初めにその方がどこの地域にお住まいかというのを問いています。その属性を基に、その後の問いの常設場の利用頻度等について、16から19までですね。どこの地域の方がどこの利用頻度が高いかというのを集計結果で表していければと考えております。

【事務局】

酒井委員と追分委員がおっしゃったような作りにはしているつもりです。どこの地区の方がどういうところに利用支援を必要としているのか、何個か繋げ

て分かるような作りであるとは思いますが。

終了